

ふくろいスマイル座談会 ⑪笠原地区

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスター プラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 笠原地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年10月23日(水)19時～20時40分
場所	笠原コミュニティセンター 【参加人数:52人】
内容	<p>1 開会 2 まちづくり協議会/会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスター プランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答 5 意見交換 「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など 6 閉会</p>



●当日の意見交換の主な内容 (※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました)

子どもがすこやかに育つまち

- 地元のこども園に地元の子どもが入れるようにしてほしい。
⇒通いたい園に通えない状況が発生しているのは把握している。待機児童を生じさせないことが第1優先ではあるが工夫していきたい。子ども園などのあり方も皆さんと検討していきたい。

活力みなぎる産業のまち

- 笠原への人口誘導策はどのような方策を考えているか。
⇒人口の増加には働く場所が必要であり、産業誘致に結び付けないと考えている。産業がなければ人口も増えないし、まちの発展はないと思ってい

健康長寿で暮らしを楽しむまち

- 高齢者をどう面倒を見ていくのか。若い人の負担を減らすこと必要。
⇒地域の人で助け合えるのが理想。笠原は生活支援ネットワークがあるので全市で進めていきたい。
- 国は80歳まで働くことを推奨している。市も80歳まで働ける環境づくりを進めてほしい。
⇒ぜひ実現していきたい。

快適で魅力あるまち

- 袋井駅と浅羽支所が拠点となっているが、笠原地区はそこまでの交通手段が課題。免許返納後の高齢者の移動手段が重要。メローバスも利用し易くして欲しい。
⇒高齢者の移動手段が減っており、メローバスも見直しているが、満足できるところまでできていない。ライドシェアなど新たな地域交通のあり方も検討したい。

市民がいきいきと活躍するまち

- 詳細な計画、具体的な話がないと話し合いにくい。
⇒今日はキックオフミーティングの位置づけ。今後、必要な情報を必要な方々に提供しながら進めていく。
- 計画を作る時の理念として『これから地域を担う若い方々が元気よく、暮らしがいを持って住めるようなまちづくり』が大切だと思う。
⇒50年後100年後を見据え、若い人が活躍できる地域づくりのための計画として策定していきたい。

「ご意見・ご提案」用紙から

- 地元の子ども園に入れない子どもがいる為に、PTAが成り立たなくなっている。出来れば地元優先で入園できるようにして欲しい。
- 誰もが働きやすい包摶社会の実現。デンマーク牧場の観光スポットとしての活用。地域の安全・安心を守る笠原駐在所の存続。
- 少子化対策・高齢化対策のモデル地区づくり。南海トラフ巨大地震から高齢者や子どもを守る対策。里山を元気にするための考え方の提案。

安全・安心に暮らせるまち

- 三沢川が台風15号の際に警戒水位まで10cmになった。浚渫などは土木事務所が担当だと思うが、市でも対応を検討してほしい。
⇒三沢川は県管理であり県に対して要望していく。浚渫や草刈りを行い、河川の持つ機能を果たせるようにしていく。
- 砂利の堆積や葦が生い茂ったり氾濫の危険がある。
⇒浚渫だけでなく河川の川幅を広げたり、排水機能を整備するなど市内で順次行っていく。
- 三沢川のハザードマップはどうなっているか。
⇒県作成のハザードマップは本年3月に県ホームページで公表されている。今後、市内の他の河川との重複部等調整し公表する。